が　ん　検　診

胃がん検診（職域・地域）

職域検診では、Ｘ線撮影と内視鏡（施設検診のみ）による胃がん検診を行っている。Ｘ線による検診は、令和４（2022）年度は44,147名（男性31,768名、女性12,379名）が受診した。当施設で二次検診として内視鏡検査を行った79名からは１例も胃がんは発見されなかった。一次検診での内視鏡による検診は、2,767名が受診し、胃がんの発見は３例であった。

地域検診では、神奈川県下11市町より委託を受け、検診車による検診を実施した。8,867名が受診し、18例（男性15例、女性３例）の胃がんを発見した。

大腸がん検診（職域・地域）

大腸がん検診は免疫学的便潜血反応を用いて行っている。

職域検診では、令和４（2022）年度は78,532名（男性54,414名、女性24,118名）が受診し、要精検率は4.1％であった。

地域検診では、令和４（2022）年度に検診を受託した13市町で検診を実施した。10,014名（男性3,782名、女性6,232名）が受診し、要精検者数は579名で、その中から23例（男性15例、女性８例）の大腸がんを発見した。

超音波検診

超音波を対象物に当ててその反響を画像化する検査方法であり、何回行っても人体にまったく害のない検査である。腹部の実質臓器（肝臓、膵臓、胆のうを含む胆道、脾臓、腎臓、および腹部大動脈など）を対象とした検査で、令和４（2022）年度は20,306名が受診した。各臓器の悪性腫瘍を疑う所見については精密検査が必要な「要精密検査」（全体の2.2％）として、専門医療機関へ紹介している。そのほか肝血管腫、脂肪肝、無症候性胆石、胆のうポリープ、大動脈の石灰化などが診断される。これらの有所見者については近医に紹介するほか、当協会では超音波外来においてフォローアップを行っている。

肺がん検診（職域・地域）

胸部Ｘ線と喀痰細胞診（ハイリスク者のみ）による肺がんのスクリーニング。専門医を含む読影経験豊富な医師による二重読影を行い、過去画像があればそれを参照して比較読影を行っている。

職域検診ではその結果を依頼企業に返している。コロナ禍で実施団体（企業等）数は減少したが受診者数は横ばいであり、発見肺がんは２例あった。

住民検診は県下の８自治体（横浜市を除く）から検診（二次読影）を受託しているが、受診者数は前年比で10％減少している。この中で６例の肺がんを発見した。

住民検診の流れは読影結果を医療機関へフィードバックし、要精検とされた例については各医療機関で最終判定をして、受診者に結果が伝達される。関係医療機関だけでなく関係自治体・医師会の担当部署を含めて、精度管理の向上に努めている。横浜市の肺がん検診では平成20（2008）年度の開始時から当協会が中区での二次読影にかかわっている。

人間ドックや肺検診ではCT検診受診希望者を対象に、MD-CTによる低線量撮影（１mSv程度の低線量、通常施行されているCT検査の1/10程度の被ばく線量）での肺がんCT検診を行っている。CT検診認定技師が一次チェックを行い、疑診例ではその場で薄切り撮影を追加し、その後医師２名（１名は呼吸

器専門医または放射線診断専門医）が独立し二重読影を行っている。今年度はコロナ渦中でもCT検診受診者数は1,071名（男性735名、女性336名）で前年比10％増であり、１例の肺がん発見があった（本年報統計未掲載）。

子宮がん検診（施設、地域・車検診）

施設での検診は、診察（内診を含む）・細胞診による子宮頸部および体部のスクリーニングを実施している。希望によりHPV検査を行っている。問診と内診により発見される子宮筋腫や頸管ポリープなど、一般婦人科疾患の早期発見にも努め、適切に指示している。

車検診は、問診・細胞診による子宮頸部のスクリーニングを行っている。県内の５大学病院と県立がんセンターの婦人科腫瘍専門医からなる「子宮がん車検診実施検討会」を組織し、精度管理・向上に努めている。診察・細胞採取・診断は、同検討会の各大学病院婦人科医師が担当している。

令和４（2022）年度、検診を受託した自治体は17市町で12,501名が受診し、１例の子宮頸がんを発見した。コロナが少しづつ落ち着きを取り戻し、施設、地域、車検診ともに受診者が回復傾向にある。

乳がん検診（施設・地域）

施設での検診は年齢に応じてマンモグラフィ・乳腺超音波検査のいずれかあるいは両方を実施し、希望者には視触診を行っている。受診者には視触診の段階で中間がん(※)を意識した自己触診の指導にも努めている。また当協会では一次検診での要精検者に対し総合的な二次検診まで実施している。二次検診では治療機関への紹介の必要性を検討し、病院受診が不要な受診者に対しては協会での経過観察も行っている。これにより病院への不要な受診によって被る負担を軽減するとともに、治療機関における初診外来の混雑緩和にもつながることを期待している。令和４（2022）年度は17,643名が受診し22例のがんを発見している。

検診車による地域での検診は、国の基準に準拠しマンモグラフィ検診を実施。読影は『神奈川県乳がん集団検診協力医療機関連絡会』の指導に基づき、検診マンモグラフィ読影認定医師が実施している。令和４（2022）年度、検診を受託した自治体は17市町で、10,545名が受診し33例のがんを発見した。

また平成18（2006）年度より、「ピンクリボンかながわ」事務局としてNPO法人乳房健康研究会と共に、乳がんの早期発見・早期治療を目指し、乳がん検診受診率向上に努めている。

新規事業として、令和５（2023）年２月から施設検診にて3Dマンモグラフィ（トモシンセシス）検査を開始した。従来のマンモグラフィは、１回の圧迫で１方向から撮影し乳房全体を２次元的に表示している。3Dマンモグラフィは、１回の圧迫で角度を変えながら乳房を多方向より撮影する、収集した画像データを３次元に再構成して表示する。従来のマンモグラフィに比べ、乳腺の重なりを少なくすることで病変を検出しやすくすることが期待できる。またこの検査は、一般健診、人間ドックのオプション検査項目として実施している。

※がん検診で推奨される受診間隔の間に発見されるがん

神奈川からがんをなくす会・ACクラブ

会員制のがん検診組織。ACとはAntiCancerの略。「神奈川から肺と胃のがんをなくす会」を前身として昭和51（1976）年に発足した。消化器（胃・大腸）がん・肺がん・乳がん・子宮がんの早期発見・治療を目指し、経年変化を追ったきめ細かい対応を行っている。